ヒューマンウェア博士課程プログラム平成 27 年度第八回企画運営委員会議事概要

【日時】　2015 年 2 月 4 日（木曜）12 時から 13 時
【場所】　情報科学 C 棟 401 室
【出席（敬称略）】　清水（委員長・情）、尾上（情）、井上（情）、増澤（情）、藤原（情）、村田（情）、谷田（情）、難波（生）、平岡（生）、八木健（生）、細田耕（基）、石黒（基）、細田一（情）、中村（基）、石井（生）、
【欠席（敬称略）】　若宮（情）、松岡（サイバー）、藤田（生）、柳田(生)、大澤（生）、近藤（生）、宮崎（基）、中野（生）、
【陪席（敬称略）】　住吉（情）、礒田（情/部門事務）、谷川（情/部門事務）、岡本（情/部門事務）、井汲（情/部門事務）森田（生/部門事務）、
【陪席欠席（敬称略）】

<u>配布資料</u>
HWIP ホームページ教員用ページにアップします。（パスワード： HWinnovation）

<u>議題</u>
(1) 教務委員会（資料１）
- 授業関連の進捗について報告があった。
- 1 月 26 日午後に 一期生(3 年次)に対して、R-QE を実施した結果の報告があった。（要回収資料あり）書面、プレゼン、質疑（海外インターン中２名 Skype 受験）で審査を行った。受験者全員を合格とする、教務委員会案を了承した。未来事務に報告し、受験生に結果を報告する。審査委員の審査書も受験生にフィードバックし今後の自身の成長に役立ててもらう。
- 2 月 21-25 日海外経験を積ませることを目的に北米へ派遣する（19 名、引率細田一、久保井阪大名誉教授（前北米センター長））

(2) 選抜委員会：（資料２）
- Pre-QE を 12 月 1 日 AM に実施し全員を合格とした旨、報告あり。
- 第４期生募集について、12 月 18 日説明会を開催した。（約 40 名参加）願書受付 2 月 22 日-3 月２日、日程資料２参照。優秀な学生に応募するよう勧めてほしい。

(3) 海外連携委員会（資料３）
- 現在の海外渡航状況について報告があった。
- 危機管理体制について検討の進捗報告があった。
  部門内の海外連携委員＋企画運営委員の構成委員にて、緊急対策チーム・部局対策本部を構成する。各部局で情報収集、家族担当、現地派遣、非被災学生関係者担当を決めておくこととした（情報の担当は資料３の通り、大澤（生命）、新井（基

礎工）にも各研究科の担当をお決めいただくこととした)。必要な場合は、」HWIP担当者以外の協力も可とする。

(4) 産学連携委員会（資料なし）

- 報告事項なし。来年度の産学連携連絡協議会日程など決めていきたいと考えているとのこと。全体来年度のカレンダーを作る。

(5) 広報委員会（資料なし）

- 特になし。

その他

1. 学生主催若手合宿研究交流会（難波）
   企画について説明があり、来年度 HWIP 事業として進めることとした。
   7 月 13-15（京都くに荘）委員長小森（２期生、情報）11-21 日海外学生滞在。
2. 来年度の予算のための調書作成（清水）
   事務局を中心に作成中。来年度の事業カレンダー作成と連動するので協力いただきたい（本年度までに軌道に乗ってきた事業を実施していく)。中間評価調書に記載した予算規模で調書は出すが 27 年度の交付額から考えると満額は来ないと思われる。本プログラムの事業を実施したり、履修生を支援することでちょうどバランスするくらいになると思っている。
3. 中間評価ヒアリング終了した(12 月 17 日)（清水）
4. 未来機構会議教育部門懇談会で支援終了後の体制について議論している（清水）以下に、懇談会での議論の説明と、その後行った意見交換で出た意見を示す。
   - 支援終了 H30 年度。
   - その後４年は履修生が在籍する。
   - 文科省から予算措置はないが、終了後も、少なくとも履修生がいる間は本部と部局でプログラムを実施する必要がある。
   - 本プログラムを参画部局で定着させていく仕組みを考えていく（研究科の学位、単位に取り込む案（１)、独立プログラム（副専攻のイメージ）案（３）などある。
   - 教育担当小林理事から部局長あてプログラム発展・定着について（協力依頼）の文書が出た。部局と本部の議論の際に出る可能性があるのでプログラム担当者から部局執行部に連絡をしておいてほしい。
   - 卓越大学院構想をにらんで発展させていくべきかと考える。(中間ヒアリングでの質疑回答でも総長を含めそのように回答している）大学の５つのりーでぃんぐがすべて同じ形態を志向していくかは未定。
   - 卓越大学院につないでいく場合は７つの基本的方向性が文科省から明示されているので意識していくべきである。(社会人学び直しなど手つかず)
   - 現在のリーディングプログラムは５年一貫になっていたり、色々と規則が固いところがある。実質的により良いものにするために、柔軟な対応が取れるようにし

ていくべきである。（例えば博士後期課程から入ってくる人に対応したり、博士前期課程で出る人にもメリットのあるプログラム？、今後要議論）

- 来年度１年間くらいで方向性を決めたい。部局での議論もお願いしたい。

次回は 3 月 17 日(木) 12:00-13:00 情報科学研究科 C 棟 4 階 C401 開催予定。